「清流の国ぎふ」文化祭2024
清流の国ぎふ
地芝居・伝統芸能フェスティバル
地歌舞伎・獅子芝居公演

2024年10月26日(土)

◆会場 ぎふ清流座(ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール)
◆開演 13時00分(開場12時00分)
◆上演外題・出演
13時00分(50分) 恋飛脚大和往来 新口村の場
佐見歌舞伎公演実行委員会(白川町)
14時10分(50分) 神霊矢口の渡し 頓兵衛住家の場
岐南町伏屋獅子舞保存会(岐南町)
15時20分(70分) 歌舞伎十八番の内 勧進帳
白雲座歌舞伎保存会(下呂市)
終演16時30分(予定) 演目等は変更となる場合があります。

佐見歌舞伎公演実行委員会

白雲座歌舞伎保存会

岐南町伏屋獅子舞保存会

イヤホン同時解説
演目の見どころやあらすじについて、分かりやすく解説します。

南山大学名誉教授
東海学園大学客員教授 安田 文吉氏

地芝居大国ぎふ応援大使
古典芸能解説者 葛西 聖司氏

©山口直也

ライブ配信
公演の模様をぎふ清流文化プラザYouTubeチャンネルで配信します。
ぎふ清流文化プラザ YouTubeチャンネル

第39回国民文化祭 第24回全国障害者芸術・文化祭
「清流の国ぎふ」文化祭2024
ともに・つなぐ・みらいへ ～清流文化の創造～
2024年10月14日(月・祝)～11月24日(日)

主催／岐阜県・(公財)岐阜県教育文化財団
協力／岐阜県地歌舞伎保存振興協議会
岐阜県文楽・能保存振興協議会
岐阜県獅子芝居協議会

JAPAN CULTURAL EXPO

清流の国ぎふ
地芝居・伝統芸能フェスティバル
地歌舞伎・獅子芝居公演

佐見歌舞伎公演実行委員会(白川町)

白川町の佐見地域では、江戸時代より庶民の楽しみとして地歌舞伎が親しまれてきました。戦前は当地域に五軒の芝居小屋があり、特に昭和十年代には盛んに上演されていました。しかし、昭和二十八年の公演を最後に、佐見歌舞伎は「時幕を閉じることとなり、昭和三十四年の伊勢湾台風などの被害によって、芝居小屋も全て失われてしまいます。

平成三年春、佐見中学校の体育館が竣工し、その記念公演として三十七年ぶりに佐見歌舞伎が復活しました。公演には二日間で約千人の観客が訪れ、大変な熱気に包まれました。

その後、不定期ながら公演を続け、平成十八年に佐見歌舞伎公演実行委員会を結成。以来、佐見中学校を舞台に公演を重ね、令和元年十二月に十二回目の公演を行いました。また、海外でも地歌舞伎の魅力を発信しており、平成二十八年にイタリアで、平成二十九年にはマレーシアで寿式三番叟を披露し、高い評価をいただくとともに、国際交流を図ることができました。

先人が築きあげた地域の文化を後世に引き継ぎたいと、子どもたちは佐見小学校の授業の一環で地歌舞伎の練習を、大人たちは「佐見歌舞伎伝承教室」にて太夫、三味線、附け打ちの練習に励むなど、日々活動を続けています。

白雲座歌舞伎保存会(下呂市)

白雲座歌舞伎保存会は、下呂市門和佐の白山神社境内にある芝居小屋「白雲座」を拠点に活動する地歌舞伎保存団体です。

この地区では、江戸時代より地歌舞伎の公演が行われていました。明治から昭和初期にかけては毎年のように公演が行われていましたが、戦後数年間続いた公演を最後に途絶えてしまいました。昭和四十年頃には芝居小屋の売却も検討されましたが、昭和四十六年に地元青年団が新劇を公演したことで地歌舞伎の取組みが再燃しました。昭和五十三年、白雲座が国の重要有形民俗文化財に指定されたことを契機に、地元住民によって「白雲座歌舞伎保存会」が結成され、今日に至るまで、毎年十二月に白山神社祭礼で奉納歌舞伎を上演しています。

さらに、下呂市和佐出身で、歌舞伎座の絵描きをしていた松本千冬氏が約七十年前に手掛けた白雲座所蔵の舞台背景を、将来にわたって長く保存するため、「白雲座書割レプリカ実行委員会」による、複製作業を進めています。複製作業は全てボランティアによるもので、こうした文化財の保護・保全のために寄せられる思いが、一層、当地の地歌舞伎を盛り上げています。

岐南町伏屋獅子舞保存会(岐南町)

伏屋の獅子舞は、岐南町伏屋地区にある白山神社祭礼の際に奉納されてきた、伊勢大神楽の流れをくむ獅子舞で、江戸時代より長きに渡り地域の人々の手によって受け継がれています。

伏屋の獅子舞は「神楽獅子」と「獅子芝居」の、大きく二つに分けられます。神楽獅子は、白山神社祭礼の際の奉納で行われる、悪魔払いを中心とした獅子の舞、獅子芝居は、獅子が歌舞伎や人形浄瑠璃の外題を演じる芝居です。伏屋の獅子舞は、獅子の性別が雌の雌獅子であり、獅子頭はたてがみが無く耳が立ち、舞手は黒紋付を着て演じます。雌獅子が演じる獅子芝居が、貴重な芸能であるとして、岐阜県重要無形民俗文化財に登録されています。

一時は後継者がおらず、存続の危機にありましたが、伝統の灯を絶やしてはならないと、再興の取り組みにより、現在は二十代から三十代の若手も増え、再び上演されています。今後も過去に獅子芝居が盛んであった時期に行われていた芝居の外題を中心に、新しい演目の公演ができることを目指して活動していきます。

地芝居スタンプラリーを開催中!
県内の各公演を巡って地芝居印(スタンプ)を集めて景品を貰おう!
《スタンプラリーの楽しみ方》
1. 公演会場で地芝居印帳(スタンプ台帳)を入手
2. 入手した台帳を持って公演を巡る
3. 公演会場でスタンプをもらう
4. スタンプがたまったら景品と交換

地芝居印帳(スタンプ台帳)

その1 スタンプ獲得で全員にその場でプレゼント!
スタンプ3個で 白川茶ティーバッグ + 花の種
スタンプ5個で 五平餅
スタンプ8個で オリジナル手ぬぐい

その2 さらに豪華県産品が抽選で当たる!
※専用入り口までご応募ください
スタンプ5個で など…
スタンプ8個で など…
※写真は景品の一例です。

県内各地の公演情報はこちら!
地芝居大国ぎふ WEBミュージアム
地芝居大国ぎふ WEBミュージアム
保存団体による公演情報やアーカイブスなど、魅力あふれるコンテンツを発信中!
HP [X(旧Twitter)] [Instagram] [Facebook]

ぎふ清流文化プラザYouTubeチャンネル
地歌舞伎勢揃い公演など、これまでのぎふ清流座での地芝居公演を配信中!
公演当日はライブ配信をします。

清流の国ぎふ 地芝居・伝統芸能フェスティバル

ぎふ清流座次回公演のお知らせ
10月27日(日)
文楽・獅子芝居公演

出演
室原文楽保存会(養老町)
大井文楽保存会(恵那市)
白山比咩神社獅子舞保存会(恵那市)
筑前琵琶奏者 田中旭泉

※詳細はホームページにてお知らせいたします。

地芝居とは
地芝居とは、地元の素人役者によって演じられる地域の根付いた、歌舞伎、文楽、能狂言、獅子芝居の総称です。
現在、岐阜県では40を超える地芝居団体が活動しており、毎年各地で定期公演等を行っています。
また、県内には歴史ある芝居小屋や舞台が数多く現存しており、築100年を超える芝居小屋でも、毎年公演が行われています。

恋飛脚大和往来　新口村の場

佐見歌舞伎公演実行委員会（白川町）

大阪の三度飛脚屋（江戸との間に金の輸送をする飛脚屋）亀屋の養子 忠兵衛は、大阪新町の廓で、ある男の意地にかっとなって、思わずお屋敷へ届けるはずの金三百両の封印を切ってしまいます。封印切は公金横領とみなされ、死罪は免れません。死を覚悟した忠兵衛は、愛する梅川を身請けして、故郷大和国新口村へ向かったのでした。

新口村に辿り着いた二人は、忠三郎の家で追手から身を隠しているとき、雪の中を歩いてくる忠兵衛の実父 孫右衛門に出会います。梅川は雪の上で転んだ孫右衛門を助け起こし介抱します。

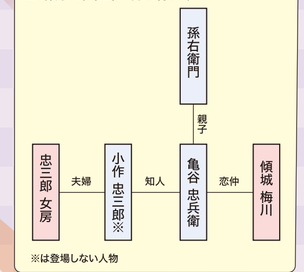
孫右衛門はうすうすこの女が倅の情婦と察しますが、梅川は孫右衛門に迷惑がかかってはと名乗ることもできません。忠兵衛の養母 亀谷妙閑への義理を思って公式に逢うことを拒否する孫右衛門は、よそながら忠兵衛に心情を語って聞かせます。梅川の機転で目隠しをして親子は対面し涙にくれるのでした。

追手が迫り、孫右衛門は二人を逃がそうとし、逃げる二人を孫右衛門が見送るところで幕となります。

◆配役

亀谷 忠兵衛　田中 厚宏
傾城 梅川　熊崎 葵
忠三郎 女房　村上 欣子
孫右衛門　笹俣 正和
狂言方　今井 悟

恋飛脚大和往来　新口村の場



イヤホン同時解説

安田 文吉氏

日本近世文学、近世芸能文化研究者。東海学園大学名誉教授。日本歌謡学会常任理事。東海近世文学会代表。名古屋芸能文化会代表。名古屋三曲連盟理事長。令和元年度名古屋市芸術特賞受賞。著書に『常磐津節の基礎的研究』（和泉書院、一九九二年、東洋音楽学会田辺尚雄賞受賞）、安田徳子氏との共著に『歌舞伎入門』（おうふう、一九九五年）、『ひだ・みの地芝居の魅力』（岐阜新聞社、二〇〇九年）などがある。

神霊矢口の渡し　頓兵衛住家の場

岐南町伏屋獅子舞保存会（岐南町）

足利との戦に敗れた新田義興の弟 義峰とその恋人うてなは、人目を忍んで矢口の渡しにやってきます。渡し舟を求めた家は、偶然にも義興の仇、頓兵衛の住家でした。頓兵衛の娘 お舟（獅子）は、義峰を敵方とは知らずに一目惚れし舞い上がり、一夜の宿を提供します。

そこへ下男の六蔵がやってきて、義峰の旗印を見ると、敵である新田の残党に間違いないと確信し、奥に踏み込もうとします。お舟は六蔵の心を上手くなだめ、まずは頓兵衛を呼んでくるように促すのでした。

◆配役

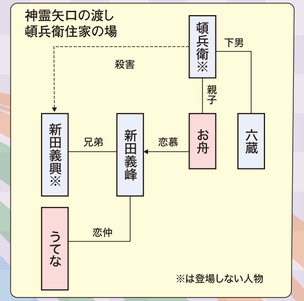
【神霊矢口の渡し】

お舟（獅子舞）　加藤 隼也
お舟（言葉師）　青井 胡桃
義峰　木村 由郎
うてな　葛谷 涼夏
六蔵　津川 裕平
六蔵（言葉師）　朝倉 修一
太夫　杉江 陽輔
唄　松原 正和
三味線　豊臣 奏花
附け　杉江 美晴
着付　三宅 朱美
〃　村瀬 みどり

【神楽獅子】

獅子舞　朝倉 修一
後持　杉江 陽輔
唄　松原 正和
〃　津川 裕平
笛　伏屋 節雄
〃　加藤 隼也

神霊矢口の渡し
頓兵衛住家の場



歌舞伎十八番の内　勧進帳

白雲座歌舞伎保存会（下呂市）

兄源頼朝と不仲になり、追われる身となった義経。奥州 藤原秀衡を頼りに、陸奥へ逃れようと、弁慶をはじめとする家来を連れて加賀の国 安宅の関に差し掛かります。家来たちは山伏に変装し、義経は強力（荷物持ち）に変装しています。関守の富樫左衛門は、頼朝の命を受け義経を捕らえようとしますが、弁慶は東大寺再建のための勧進（寄付集め）のために能登へ向かうと言います。どんな理由があっても通すことは出来ないという富樫。観念した弁慶は最後のお勤めをして覚悟を決めます。

富樫は、「もしかしたら本物の勧進かもしれない。」と疑い出し、「勧進帳」を読めと言います。本当は手に取って見たいところですが、身分の違いから出来ません。弁慶は偽物の勧進帳を朗々と読み上げます。

さらに確信を得たいと仏教の核心に迫る質問をぶつけます。弁慶は元々比叡山の僧のため、答えるのは朝飯前です。富樫は本物の山伏と思い、通ることを許可します。しかし、義経の顔を知っている家来が、強力が義経に似ていると言います。

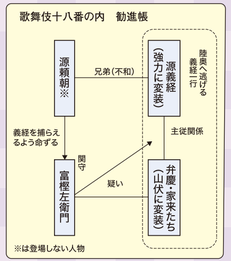
弁慶は義経を金剛棒で打ち据え、「疑いあらば打ち殺して見せましょう。」と言います。義経一行であることを確信した富樫ですが、弁慶の命がけの忠義に感動し、一行が通ることを許します。弁慶は義経に詫びますが、義経はじめ家来一同、弁慶の機転をほめます。

富樫は先ほどの非礼を詫び、杯を交わし、一行との別れを惜しみます。

弁慶は「延年の舞」で感謝を表し、一同は陸奥の国を目指して出発していきます。

◆配役

武蔵坊弁慶　細江 和彦
富樫左衛門　今井 正規
九郎判官義経　今井 絢哉
伊勢三郎　熊倉 卓也
片岡八郎　細江 優弥
亀井六郎　細江 倍基千
常陸坊海尊　安江 進
太刀持　細江 松之真（小学五年生）
番卒甲　河原 一馬
番卒乙　田口 竹志
番卒丙　桂川 隆行
後見　今井 栄進
〃　砂原 悟
狂言方　今井 鋭昇
黒子　今井 正人
総括　今井 寛司



協力

振付指導　市川 福升
二世 尾上菊松
振付補助　桂川 幸雄
太夫　竹本 美芳
三味線　豊澤 順八
下座　長唄　杵屋 喜朱雀
鳴物　加藤 神威
住田 喜久次
永山 萌
鳳川 辰次
住田 尚子
笛　小野崎 隆賢
小野 恵理子
化粧・着付　伊藤 明美
井料田 寿子
橋本 守
衣裳　内山 亨恵
伊藤 麻理
川上 昌子
川上 章子
川上貸衣裳

イヤホン同時解説

葛西 聖司氏

©山口直也

東京都出身。古典芸能解説者。NHKアナウンサーとしてテレビ、ラジオで様々な番組を担当してきた。現在は、歌舞伎や能狂言など古典芸能の解説や講演、また日本伝統文化のセミナーを全国で開催している。「教養として学んでおきたい歌舞伎」「教養として学んでおきたい能・狂言」「僕らの歌舞伎」「文楽のツボ」ほか著書多数。令和四年四月より地芝居大国ぎふ応援大使に就任。